

平成23年度第1回泉区地域福祉保健推進協議会 議事録

平成23年8月18日に開催された、第1回泉区地域福祉保健推進協議会(以下、「協議会」という。)の概要について報告します。

I 開催状況

- 1 開催日時 平成23年8月18日(木) 午後2時から4時20分
- 2 会場 泉区役所4階4ABC会議室
- 3 出席者 計 51人 (出席状況は出席簿参照)
(内訳)

協議会委員	25人	(福祉保健センター長含む)
地域ケアプラザ	5人	
泉区社会福祉協議会	4人	
地域支援チームリーダー	10人	(福祉保健課長含む)
事務局等	7人	(係長1、担当4、担当部長、生活衛生課長)

II 内容

1 あいさつ

- (1) 泉区福祉保健センター 菊地センター長
- (2) 泉区地域福祉保健推進協議会 村井会長

2 議事 第2期泉区地域福祉保健計画の推進について

(1) 報告事項

- ア 泉区地域福祉保健推進協議会のグランドデザインについて
- ・資料に基づき、グランドデザインについて説明

- イ 第2期泉区地域福祉保健計画 区計画の進捗の報告について

- ・資料に基づき、区計画の進捗状況について報告

- ウ 計画推進活動発表、パネル展の開催、広報紙の発行について

- ・資料に基づき、計画推進のためのイベント、新たな広報紙の発行について説明

- エ 第2期泉区地域福祉保健計画 川柳・シンボルマークの活用について

- ・資料に基づき、昨年度選定した川柳・シンボルマークの活用方法について説明

(2) 審議事項

村井会長から、報告事項ア・イ・ウについて各委員に諮りましたが、特に御意見等はなし

【村井会長からのコメント】

報告事項ウについては、当協議会が主体となってイベントを開催するとともに、広報紙を発行することで効果的な情報発信を行い、協議会の活動を盛り上げていきたいと思っている。協議会が主体となることで、どのような役割を担うことになるのか不安に思われる方もいらっしゃると思うが、委員のみなさんから御意見やアイデアをいただきながら、協議会の取組をPRしていくことで、多くの方々の参加・つながりの機会をつくっていききたいと思っている。今後、協議会が主体となって、これらのイベントや広報紙の発行を行っていくということについて、よろしいでしょうか。

→ 報告事項ア・イ・ウについて承認

協議会事業として、イベント・広報紙の発行を行うこと(作業は事務局が中心)についても承認

- (3) 前回の泉区地域福祉保健推進協議会後の連携事例の紹介
地域子育て支援拠点(すきっぷ)と薬剤師会の事例について、佐藤委員(すきっぷ施設長)から報告(パワーポイント使用)

(報告内容)

- ・薬剤師会(伊東委員)に、すきっぷのリーフレットを区内の薬局に置いていただくことについて依頼したところ、45か所中35か所について承諾を得られた。
- ・6月11日に各薬局に10～30部ずつ郵送し、7月1日にその後の状況を視察した。
 - (A薬局) リーフレットの設置とともに、伊東委員から地域の方を御紹介いただいた
 - (B薬局) 親子の方が利用する場所に箱を用意していただいた。
 - (C薬局) リーフレット専用の入れ物を独自に作っていただいた。
- ・中には、置いていただけなかった所もありましたが、協議会でのつながりから、35もの薬局にリーフレットを置いていただくことができました。ありがとうございました。

【村井会長からのコメント】

- ・協議会という「出会いの場」で、連携協働の事例がでたことはうれしい。
連携や協働を生み出すことにつながるよう、まずはできることから始めればよいと思う。

3 意見交換「災害のとき、わたしたちが協力してできること・できたこと」

(1) 問題提起 小堺委員(泉消防署 予防課長)

- ・3月の震災においては、阪神淡路大震災の時と比べて、みなさんがまずできることに取り組み、地域福祉保健計画にもあるように、「支え合い・助け合い」が行われていた。
- ・災害について、日頃からどういう備えをしていけばよいか、災害時にはどういふことが必要なのか、地域、家庭、行政それぞれが考え、取り組んでいく必要があると思う。
- ・また、安否確認をはじめ災害時に、地域・家庭・事業所等が、拠点、区域ごとにできることは何なのかを考えてみたい。

(2) グループワークの趣旨等説明(橋本係長)

災害をきっかけに、日頃からの支え合いを地域、団体、関係機関が協力して行えたこと、これからに備え、もっと大事にしていきたいことを意見交換していただきたい。

(3) グループワーク(30分)

(4) 発表

1グループ(緑園、富士見が丘、警察署、区社協1、区職員3)

- ・防災拠点、無線による情報連絡に関心が高かった。
- ・計画停電実施地域では、停電の計画表を各戸配布した。
- ・停電時の信号機対策として、企業所有の発電機を信号機につなぎ、対応した。
- ・要援護者のマニュアルの見直しを行った。
- ・マンションの多い地区では、防災対策について、設備等ハード面は管理組合、ソフト面は自治会とすみ分けした。
- ・住民で一人暮らしの方に声かけをした。日頃からの顔のつながりが大切

2グループ(中川、獣医師会、民児協、ケアプラザ1、区職員3)

- ・誰がどういう役割を担っているのか、把握できていない。
- ・隣近所が、更に顔の見える関係を深めることが重要
- ・フットワークのよい中学生との関係づくりが、要援護者対策には有効
- ・関係機関との連携強化が必要

3グループ（新橋、歯科医師会、訪問看護、施設長会、ケアプラザ2、区社協1、区職員2）

- ・キーワードは、「連携」と「情報」
- ・物資の不足に対応できる連携システムの構築が重要
- ・地域の班や組を強化することが災害時に役立つ
- ・施設利用者が数区にまたがっているため、地域や他施設との連携がとれると安否確認が容易になる。

4グループ（和泉中央、すきっぷ、食協、ボランティアネット、ケアプラザ1、区職員4）

- ・平常時には、最低限の非常食、乾電池、電燈の準備など、いざという時の体制をつくる。
- ・特別避難所の活用についてははっきりしていないことが多かった。
- ・利用者と施設、施設同士の顔の見える関係が大事
- ・要援護者対策では、要支援カードの提出をきっかけにした支援者との関係づくりが、当日の声かけに役立った。

5グループ（和泉北部、しらゆり、校長会、食改、ケアプラザ1、区社協1、区職員2）

- ・自治会内でエリアごとに、役員が状況を確認した。
- ・帰宅困難者については、民生委員が子どもの安否確認を行った。
- ・こども会役員のネットワークが力になる。
- ・地域で防災グッズをそろえているが、高齢者に使えない機材があった。
- ・普段からのお付き合いが大事

6グループ（下和泉、IHネット、主児、消防署、ケアプラザ1、区社協1、区職員2）

- ・平常時にきちんとやっていることが、災害時にもきちんとできる（社協だよりの発行）。
- ・「不安」がキーワード。特に一人暮らしのお年寄りなど、安否確認の際には訪問時に話しこみ、一日4人くらいしか回れないこともあった。
- ・通所施設では、開所したくても停電等で開所できなかった。
- ・平常時の横のつながりが大事

村井会長から

- ・各グループのシートの網掛けの部分は、災害時ではなく平常時に準備しておかなければならないことを示している。平常時からできていなければ、災害時に対応することは難しい。
 - ・地域のみや関係機関のみで対応するよりは、連携して対応するほうがプラスになる。泉区における問題解決を考える中で、網掛けの部分は、「やらねばならない」「やれば効果のある」こと。日頃から、話し合いの機会を設けること、本質は日常のつながりや交流であることを認識できると思う。
 - ・地区計画の推進・評価をすすめてほしい。パネル展(2/27～3/1)の時期までに地区の取組を評価し、区民に発信してほしい。
 - ・協議会の活動が、「協力できる関係・社会資源」を積極的につくっていただく基盤づくりになる。強い泉区・力を貸しあえる泉区、「あの人・団体に頼んでみよう、聞いてみよう」、「協議会に聞いてみたらわかる」というしくみをつくりあげていきたい。
- ・2月下旬からの「泉区地域福祉保健計画推進パネル展には、ぜひ御協力いただきたい。また「地区どうし」や「地区と関係機関」、「関係機関どうし」の連携事例がありましたら、事務局にもお知らせいただきたい。**

4 その他

次回推進委員会について

平成24年1月26日(木) 13:00～15:00

5 閉会あいさつ 大貫委員(新橋地区代表、 泉区社会福祉協議会 副会長)